

Title	中国進出日系企業の上級人材マネジメント
Sub Title	
Author	始良直己(Aira, Naoki) 渡辺直登
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	2002
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 2002年度経営学 第1742号 可能
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002002-1742

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

論文要旨

所属ゼミ	渡辺 研究会	学籍番号	80128012	氏名	始良 直己
(論文題名)					
中国進出日系企業の上級人材マネジメント					
(内容の要旨)					
<p>目覚ましい経済発展をとげる中国市場へ、すでに進出しているか、あるいは今後進出の計画をもっている日系企業は多い。確かに中国は公称13億人といわれる膨大な人口を抱え、今後の更なる成長が期待できる市場である。</p> <p>1990年代の後半まで、中国はその圧倒的なコスト競争力により、「世界の工場」としての役割を果たしていたと言えるが、ここ数年のさらなる外資系企業の国内投資の増加により、製造業を中心とした技術・ノウハウの流入、海外留学組の帰国による論理的・合理的な欧米式経営手法の導入などにより、経済にまつわる各分野の品質は確実に向上している。</p> <p>1980年代以降日系企業は中国への進出を遂げてきたが、それらはやはり、安価な労働力を求めての工場建設が主な目的であった。しかし、着実な経済成長を伴った中国国内の経営環境と社会構造の変化により、企業間競争は激化し、財・サービスのライフサイクルの回転速度は上昇している。つまり、今後の中国経済においても「知的労働」をになえる人材の確保が非常に重要になってくると考えられる。したがって今後は製造だけではなく、研究・開発・マーケティング・財務などの知的労働においてコスト競争力と現地と密着したニーズの把握が必要となってくる可能性が高い。</p> <p>以上のような状況を踏まえ、本研究では、中国に進出した日系企業が企業活動を円滑に行うために、現地のホワイトカラー人材をいかに活用するべきかについて文献研究と事例研究をもとに考察している。</p> <p>1章においては、本研究の背景を大まかにとらえ、研究の目的について言及した。</p> <p>2章においては、1970年代後半に始まった改革開放政策と中国の現在の経済状況について、またそれらが労使の問題にどのような影響を与えたかを考察している。結果的に次代の経済を担う中心的役割を果たすであろう中国の高学歴人材の意識がどのように変化しているのかについても考察した。</p> <p>3章においては文献研究と先行研究をもとに現在、想定される仮説を「仮説」としておき、</p> <p>4章において実際に中国の上海市内、上海近郊に存在する日系企業数社を訪問し、事例調査を行った。</p> <p>5章では「仮説」に沿って、文献研究の結果を踏まえて実際の事例である現状の日系企業のHRMSの有意点、問題点、また今後の可能性についてを中心として考察した。</p> <p>6章の結びでは、3章において構築されている「仮説」と事例研究の考察結果とを合わせて、今後このテーマについて最も有用と思われる仮説を「仮説」として再度構築し、今後の研究に委ねるかたちをとっている。</p>					